杏林大学×MISHOP の文化支援交流

飯塚　智有

この論文では、包括連携協定を締結している三鷹市と杏林大学が協力し国際交流に関する事業を起こすことで、公益財団法人三鷹国際交流協会（MISHOP）と杏林大学が抱える課題及び三鷹市の課題を解決する方法を著している。それぞれの課題は以下の点である。

三鷹市は、「外国籍市民が地域とのつながりを持つためには、どのような支援が必要か」という課題。MISHOP は、「MISHOP に所属する若年層のボランティアを増やしたい」「MISHOP のイベントに参加する外国人が主体的に動ける企画をしたい」という 2 点の課題。杏林大学は、「留学ができない学生に対して三鷹市内で何か支援をしたい」という課題である。

冒頭にある国際交流に関する事業とは、杏林大学の学生が留学や海外の生活経験を持っている社会人と交流できる場を、MISHOP が行っているイングリッシュ・ジャパニーズ・ラウンジ(以下、「J/E ラウンジ」と略)の開催趣旨を変更し、杏林大学に設けるというものである。変更点は、外国籍市民が主体的に活動できる場所を提供し、外国籍市民が杏林大学の学生に文化支援できるようにすることだ。この事業企画を実施した場合、各課題が解決する可能性が高まることがわかった。

キーワード：外国籍市民　地域活動　学生参加

1　序論

1.1　このテーマを研究した背景

本研究において、「外国籍市民が地域とのつながりを持つためには、どのような支援が必要か」を問題提起として解決策を考える。この問題に注目したのは、昨今課題となっている移民問題や外国人労働者問題など国際政治に関わる問題が頻繁に取り上げられている中、三鷹市では外国籍市民がどのような問題を抱えているのかについて疑問に感じたからである。この問題については、三鷹市のホームページ にも図 1 のように記載されている。

よって、市の問いである「外国籍市民が地域とのつながりを持つためには、どのような支援が必要か」に対して、本研究ではこれから提案する三鷹国際交流協会（以下、MISHOP という。）と杏林大学による提携企画により、企画に携わる各団体の課題解決と共に外国籍市民への支援となる方法を著す。

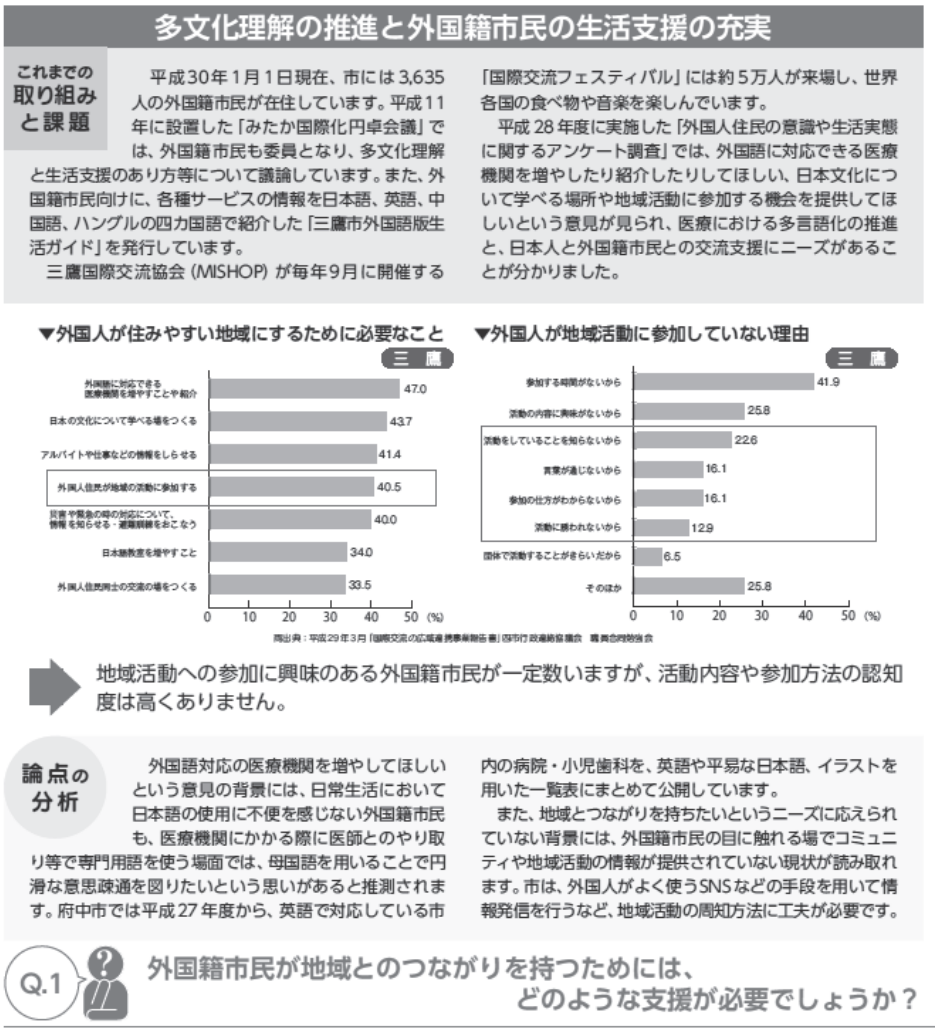
1.2　研究目的

今回のテーマを研究する目的は、杏林大学が MISHOP と協力し留学希望や海外に興味がある学生に対して文化交流を行うことで、三鷹市の課題と MISHOP、杏林大学の課題を解決につなげることである。次章では、MISHOP と杏林大学の現状課題の調査結果と、可能性のある提携事業であることを述べていく。

1.3　先行研究

本論文では、大学生が地域活動に参加することに関して触れている。この「大学生が地域活動に参加すること」にあたっての課題に関連する論文『学生地域活動コミュニティの課題と組織的支援』（内平ほか 2013）が発表されている。学生が地域と連携する活動コミュニティについての論文である。この論文によれば、サークル型[1]や部活動型[2]は活動の正当性に課題があり、具体的な事例としては活動場所や活動時間の確保で教員等と摩擦を起こすということが挙げられている。この課題に

対してこの論文では、センターへの登録制度により活動の正当性と居場所の確保をもたらすと見ている。確かに活動場所においては効果的であると論文では主張されているが、活動時間の確保については言及されていない。そこで、活動時間の確保についての課題点においてはこれから述べる MISHOP と杏林大学の文化支援という連携事業の中で解決できるのではないか、ということもこの論文で述べていく。



出展：三鷹市企画部企画経営課（2019）

図１　論点データ集　第１部１国際化の推進

2　本論

2.1　MISHOP と杏林大学の連携事業とは

私が提案する「国際交流に関する事業」とは、杏林大学と MISHOP の類似している支援事業内容を組み合わせたもの（図 2）である。

それぞれの団体が行う活動をどのように組み合わせるのかを以降、具体的に説明していく。

図 2

まずは、MISHOP の活動内容の詳細と現状課題を順番に確認していく。

2.2　MISHOP の活動内容と現状課題

■活動内容

MISHOP とは、「日本に住んでいる外国籍市民のみなさんが安心して生活できる」ための支援を行っている団体である。支援は多岐に及ぶが、大きく 3 つに分けることができる。「国際交流」、「国際理解」、「外国籍市民の支援」だ。「国際交流」では外国籍市民と日本人の様々な交流イベント、「国際理解」では専門講師による講座、「外国籍市民の支援」では外国籍市民への日常生活の支援を行っている。これら 3 つの支援の中でも「国際交流」で行われる「J/E ラウンジ」に今回は注目した。J/E ラウンジは、外国籍市民と日本人が日本語や英語で出身国のことや日本での生活のこと、学校のことや日本文化のことなどの会話を通じて外国籍市民の地域活動への参加や活躍の機会を提供する場となっている（公益財団法人三鷹国際交流協会 2022）。

■現状課題

MISHOP で行われる J/E ラウンジの現状課題を知るため公益財団法人三鷹国際交流協会常務理事の高階豊彦氏と事務局長の佐々木健氏にインタビュー（2021.6.29）したところ、表 3 の回答が得られた。J/E ラウンジの現状課題は、大きく分けて 4 つである。

①MISHOP に定着して所属する若年層の日本人ボランティアが少ないこと。

②MISHOP に所属する外国人のボランティアが少ないこと。

③外国人が主体的に活動でき、外国人が面白いと感じる企画を考える必要があること。

④J/E ラウンジの開催日が平日のため、学生の授業時間帯と被ってしまうこと。

これらの課題を解決するための方法としてこのあと述べていくが、第 2 章 1 項で述べたように杏林大学とタッグを組み解決をする企画であるため、次項では杏林大学の現状課題も確認した上で、第 3 章で企画を提案する。

表 3

Q. MISHOP の課題は？
A．①若年層の日本人ボランティアが少ないこと。しかし、支援してほしい外国人の数に対して、日本語ボランティアの数は現在においては足りている。だから、今すぐに若年層の参加者がほしいというわけではない。現在は 50～70 歳代の参加者が多いため、その後に続く担い手としての若年層をいずれかは獲得したい。現状としてのボランティア参加者としては充分足りている。 ②三鷹市の外国人のボランティアが少ない（約 4,000 人も市内にいるのに） ③ボランティアの参加者は高齢者が多い。（原因は共働きする世帯が増え、専業主婦が少なくなっている事が関係しているのでは？〔高階氏〕 支援してほしい外国人は、若年層を好んでいる。ただし、男女トラブルの注意が必要。 ④外国人が「面白い」と思えるような企画を考える必要がある。 例）パーティー。外国人同士が仲良くなる（コミュニティを広げる）ためにも、当事者同士が主体となり一緒に何かをする。受け身でだけではつまらない。 ⑤J/E ラウンジの開催日が平日のため、学生が授業などの時間と被って来られないのではないか。

表 4

Q．MISHOP の活動を学生が知らない/参加しない理由は？
A．外国人も学生も MISHOP の取組みを知らないから参加できないのではないか、ということが懸念。MISHOP の広報活動を MISHOP に登録してない外部の人にも発展させる（SNS、DM等）のはどうか。広報の仕方を工夫すれば、外国人に調査した地域活動調査のグラフも変化するのではないか。杏林学生が、ボランティア自体に対して意味や目的などの参加動機がもてるか、ということが懸念。
Q．言語支援交流についてどう思うか？
A．どんな状況の外国人にどのように支援するかで変わる。日本語が不自由な外国人に対して、学生のボランティアレベルでは支援しても外国人の言語上達は期待されないから難しい。学生ボランティアの人には責任がとれない。文化交流が目的であればボランティアレベルでも対応可能。
Q．杏林大学の課題は？
A．留学を希望していたが、コロナの為に留学に行けなかった杏林学生が留学や海外の生活経験を持っている社会人（日本人でも外国人でも可）と交流できる場を設け、文化支援（留学の実体験等）や文化交流を図る場を MISHOP 協力のもと提供していただきたい。

2.3　杏林大学の現状課題

■現状課題

杏林大学の現状課題を知るため、杏林大学外国語学部長の坂本ロビン氏にインタビュー（2021.8.10）し、表 4 の回答を得た。

杏林大学の現状課題は、大きく分けて 2 つある。

①学生も外国人も MISHOP の取組みを知ることができないため MISHOP の活動に参加ができないのではないか。

②コロナの為に留学に行けなかった杏林大学の学生に向けて、留学や海外の生活経験を持っている社会人と留学の実体験等の文化支援や文化交流を図る場を三鷹市内で提供できないか。

外国籍市民が地域とのつながりを持つための事業内容として言語支援交流ではなく文化支援交流を選択した理由は、表 4 にもある通り、現在の杏林大学内で言語指導に関する教育方法を学んでいる学生は少なく、外国籍市民に対して日本語を教える等のボランティアは学生にとって難しく、かつ学生ボランティアの日本語教授のレベルでは相手の外国籍市民にも言語の上達が見込みにくいという理由からである。よって言語支援ではなく、文化支援交流として学生が MISHOP の活動に参加することは可能であると調査からわかった。

第 2 章 2 項と第 2 章 3 項で MISHOP と杏林大学の活動内容と現状課題を見てきた。これらの課題を解決に導く企画を次章で提案する。

3　課題解決提案の内容

「外国籍市民が地域とのつながりを持つためには、どのような支援が必要か」という三鷹市の課題と MISHOP と杏林大学の課題を解決に導く企画として、MISHOP の J/E ラウンジを杏林大学で行う企画を提案する。この企画の概要等を述べた後に、本企画による 5 つの期待される効果を記す。

3.1　本企画の概要

概要は、MISHOP や杏林大学のインタビュー結果を踏まえ、表 5 のような企画内容の実施を検討している。外国籍市民が支援する側として活動するところに新規性がある。

この企画の目的は、前章で述べてきた通り、杏林大学と MISHOP の双方の課題を解決することだ。

解決方法の具体的な説明は、表 6 に示した。

表 5

企画名	杏林大学×MISHOP の文化支援交流
提　案	杏林大学の海外・留学希望学生に MISHOP で開催されている J/E ラウンジへ参加してもらう
経　緯	言語が通じるための言語支援を目的とした交流は学生のボランティアレベルには難しいので、文化支援交流に切り替える
名　目	J/E ラウンジ
参加者	MISHOP に登録している海外経験を持った人（外国人でも日本人でも可）、杏林大学の学生・教員
場　所	杏林大学（井の頭キャンパス内）
内　容	外国人が杏林大学生を支援する
新規性	外国籍市民が能動的に活動できる場所を支援する。MISHOP はこれまで外国人が受け身となる支援をしてきた為
主催者	杏林大学
頻　度	年に数回

3.2　本企画による期待

1 つ目。MISHOP の定期所属する若年層のボランティアを増やすために、本企画に参加した学生に対してイベント後に、普段は学生ではなく外国籍市民を支援している MISHOP の事業を説明する時間を設け、MISHOP の宣伝も兼ねて行う。そうすることで、若年層に MISHOP の活動自体を知ってもらうことから始め、若年層のボランティア獲得を目指すことができる。

2 つ目。外国人が主体的に活動し、外国人にとって面白いと感じられる企画を今後考えていきたいという事務局の考えに対して、本企画は外国人が主体的に動くことができ地域貢献度を感じることができるだろう。なぜなら、今までの MISHOP では外国人に対して能動的な事業が行われてきたからだ。今回の企画では、海外生活の経験がある外国人や日本人をゲストスピーカーとして招くことにより外国人が主体的に大学生に文化支援ができる場を MISHOP は外国人に提供するので、新規性も生まれる。

3 つ目。J/E ラウンジの開催日は平日（10：30～16：00）の火曜日と金曜日に行われるため、大学

表 6

	課　題		期　待
MISHOP	MISHOP に定期所属する若年層のボランティアが少ない	➡	本企画に参加した学生に MISHOP の活動を宣伝することで若年層のラウンジ利用につなげる
	外国人が主体的に活動でき、外国人が面白いと感じる企画を考える必要がある	➡	外国人もスピーカーとして主体的に動くことで、地域貢献度が向上
	J/E ラウンジの開催日が平日のため、学生の授業時間帯と被ってしまう	➡	本企画の開催場所が大学のため、授業終わりや授業の合間の時間に参加しやすい
杏林大学	コロナウイルスが原因で留学ができない学生に対して三鷹市で支援したい	➡	本企画により学生は三鷹市でも海外文化の知識を得られる

生の授業時間と重なってしまい、参加できる機会が少なく、定期的に学生が MISHOP の活動に参加することは難しいのが現状のようだ。そこで、本企画の開催場所を杏林大学（井の頭キャンパス）に置くことで、授業終わりの学生や授業の合間の時間に参加したい学生が MISHOP の活動に参加しやすくする。

4 つ目。新型コロナウイルスが原因で留学ができない学生に対して三鷹市で何らかの支援をできないかという杏林大学の課題については、本企画により杏林大学の学生は三鷹市でも支援を受けられるので、いまだ外国のコロナウイルスの拡大が日本でも懸念されている中で、外国に行かずとも、留学の予習を兼ねた疑似経験ができるだろう。また、学生にとって本企画は海外経験の予習を兼ねた文化交流であるため、コロナ終息後も事前学習として実施できるものと考え持続可能な企画であると考える。

3.3　企画による今後の課題

これまで期待される効果を挙げてきたが、表 7 の通り課題点も残されている。本企画における今後の課題としては次の点が挙げられる。

1 つ目は、三鷹市の外国人のボランティアを増やすために、MISHOP の活動を知らない人に MISHOP の活動やボランティア募集を宣伝する必要がある、ということだ。三鷹市のホームページに載っている外国籍市民の地域活動状況に関する図 8 の右側のグラフを見てほしい。外国人が地域活動に参加していない理由の中の「活動をしていることを知らないから」を答えた人は 22.6%もいることがわかる。であれば、この 22.6%の外国人の方々は、何らかの形で地域活動を知ることができれば積極的な参加意欲があると読み取ることができる。つまり、地域活動に興味があるにもかかわらず地域活動の周知が行き届いていない外国人の方々に募集をかけることができれば、外国人のボランティア数は増加することが期待される。

表 7

課　題		解決方法
三鷹市の外国人のボランティアが少ない	➡	活動していることを知らないだけの人に宣伝
学生も外国人も MISHOP の取組みを知ることができないため、MISHOP の活動に参加ができないのではないか	➡	HP 以外での外国籍市民への MISHOP の活動の宣伝方法を検討
他市・他大学の活動状況を知る	➡	調査
学生・外国人の意欲調査	➡	調査

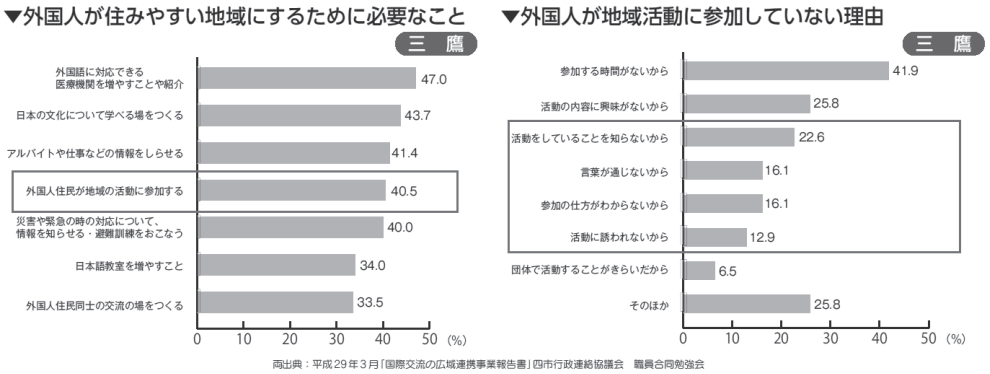


図 8

2つ目は、MISHOPが学生や外国人にボランティアの募集を呼びかけるにあたり、MISHOPのホームページ以外でも積極的に広報することがキーとなるだろう。外部の学生や外国人がMISHOPの活動やボランティア募集について知る方法が現在はホームページしかない、と事務局から伺ったが、このままの募集状態であれば MISHOP の存在や活動を既に知っている人しかたどり着けないだろう。外部の学生や外国人が MISHOP の活動やボランティア募集について知り、MISHOPの活動への参加につなげるためには、MISHOPの活動やボランティア募集情報をホームページのみで掲載するだけでなく、本企画のように参加してほしい年代層が多く在籍する学校に声かけをするなど、ホームページ以外での学生や外国籍市民への MISHOP の宣伝方法を検討する必要がある。

3 つ目に、他市の外国籍市民に関する活動や他大学の留学希望の学生に関する活動も調査することである。三鷹市以外で行われている活動にも着目し参考にできれば、本企画に応用できる可能性も高まる。

4 つ目は、本企画の参加者になる学生や外国人に、企画参加に対しての意欲調査を行うことだ。意欲調査は、企画実施における実現性を高めるためにも必要な調査である。

これらの課題に対する策を生み出したり調査したりすることは、本企画に対する解決のみでなく、三鷹市の地域活動のさらなる発展と活性につなげるための重要な課題ではないかと考える。

謝辞

最後に、論文の指導をしてくださった成蹊大学小林盾教授、杏林大学進邦徹夫教授に心より感謝いたします。また、公益財団法人三鷹国際交流協会常務理事高階豊彦様や事務局長佐々木健様、杏林大学外国語学部教授博士（教育学）学部長坂本ロビン様から、本研究にあたって必要なデータの提供やインタビューにご回答いただきました。論文の執筆にあたりご協力いただきました全ての皆様に厚く御礼を申し上げ、感謝の意を表します。

［注］

1) サークル型とは「阪神大震災以降のNPO活動や阪神大震災活動の中で,学生が地域へボランティアとして参画する動きが活発となり,リーダーとなった大学生を中心に活動が展開してきた」組織をいう（内平ほか 2013: 26)。

2) 部活動型とは「大学が承認する課外活動として地域ボランティア等の自発的な学生 C （学生が地域と連携する「学生地域活動コミュニティ」の略）を奨励し，活動環境を整備し，支援」された組織をいう（内平ほか 2013: 26)。

［引用文献］

内平隆之、中塚雅也、布施未恵子、2013、「学生地域活動コミュニティの課題と組織的支援」『農林問題研究』49(2): 255-260

公益財団法人三鷹国際交流協会、2022、「ジャパニーズ・イングリッシュラウンジ（休止中)」（https://www.mishop.jp/act/group.php?id=g0002&cat=0)

三鷹市企画部企画経営課、2019、『三鷹を考える論点データ集 2018』

プロフィール

飯塚　智有（いいつか　ちあり）

三鷹市育ちの20代です。杏林大学総合政策学部総合政策学科在学中に地域活動に興味関心を持ち、市立小学校の学習支援員や高齢社会地域活性化養成プログラムなど幾つかの地域活動に参加してきました。その延長線で、大学卒業後もなにか新たに地域活動をしたいと思い、まちづくり研究員に応募しました。